

ICTを活用した浸水対策施設運用支援システム実用化に関する技術実証事業

実証事業実施者

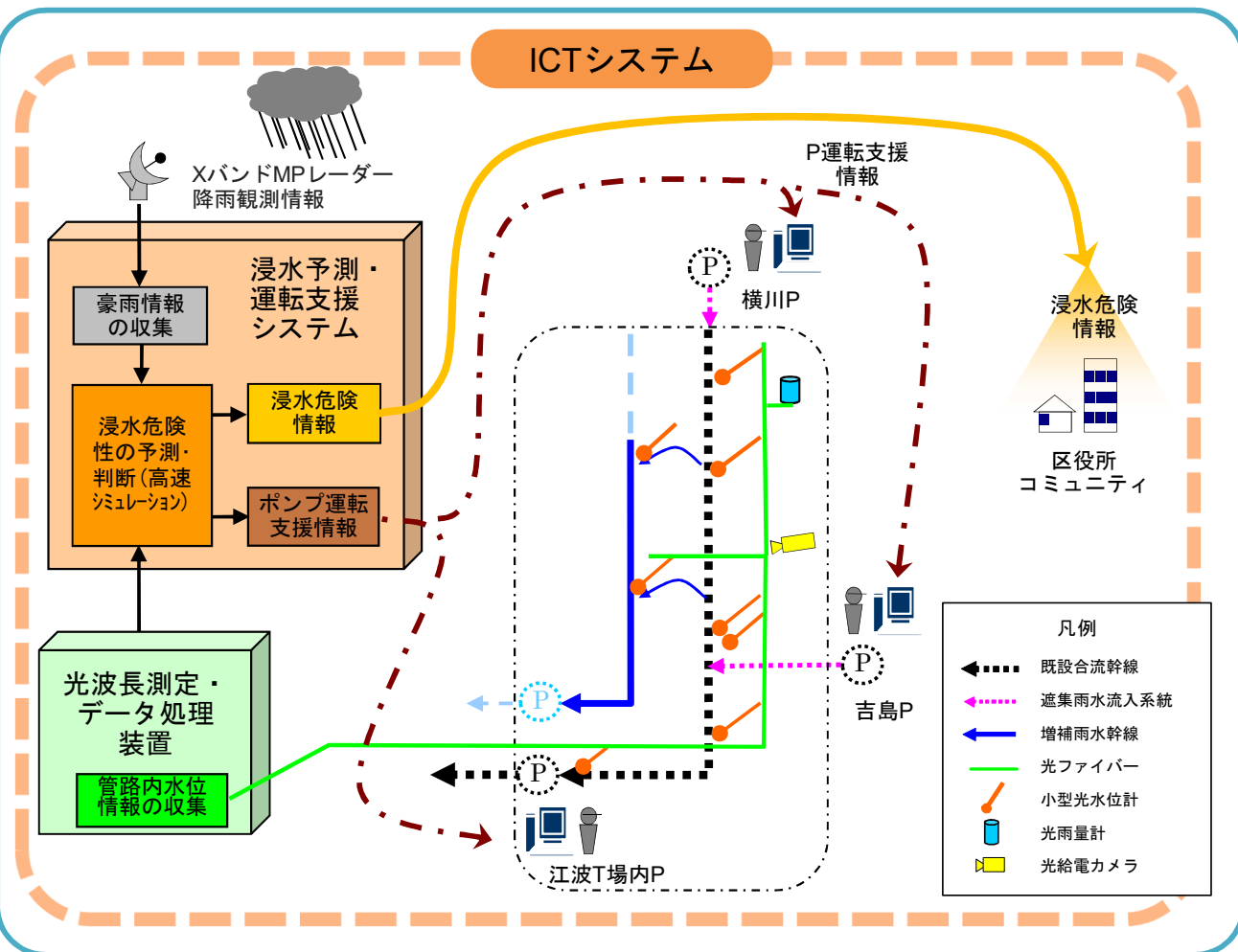
広島市、(一社)日本下水道光ファイバー技術協会、日本上下水道設計(株)、日本ヒューム(株) 共同研究体

実証フィールド

広島市江波地区(合流式)329ha(江波水資源再生センターを含む)

実証の概要

管路内の水位等の情報やレーダー雨量情報について、【検知】→【伝達】→【分析】→【提供】プロセスを一体的に結び付け、各情報を活用したリアルタイム浸水予測によりポンプ等の既存施設の運転に有効な情報を提供し、浸水被害の削減効果等を実証する。



提案技術の革新性等の特徴

- 排水区内の管路内水位・施設運転、降雨および浸水発生状況の把握するため、小型光水位センサー、光雨量計、光給電カメラを設置する。
- 各種情報を下水道光ファイバーによりリアルタイムに一体的に結び付け「ICTによる見える化」を実現する。
- 上記伝達情報とレーダー雨量情報を収集して、リアルタイム浸水予測システムを構築し、高速シミュレーションにより浸水危険性を判断する。